

	総合学術研究科(博士前期課程)
DP	<p>総合学術研究科博士前期課程において、原則として2年以上在学し修了に必要な30単位以上を修得した上で、所定の修士論文の審査に合格し、</p> <p>①自然・環境科学分野では、化学・生物・環境関連の研究</p> <p>②人間科学分野では、心理学・生命科学関連の研究</p> <p>を通して、それぞれの専門分野の研究方法を身に付けるとともに、自然と人間の共生に関わる諸問題を深く考察できる能力を身に付けた学生に対して、修士(学術)の学位を授与します。</p>
CP	<p>総合学術研究科博士前期課程の教育課程は、</p> <p>①総合的に探求するための基礎知識、探求する態度と方法、討論とプレゼンテーションの技能を育成する総合コア科目群</p> <p>②化学・生物・環境・心理・生命分野の専門知識の修得を目指す専門コア科目群</p> <p>③特定テーマに関する研究活動を深める特別研究</p> <p>を配置し、自然と人間の共生に向けて自然科学・人間科学の両面から考察できる総合力を養成できるよう、文理融合を重点において編成しています。</p>
AP	<p>総合学術研究科博士前期課程で学ぶためには、従来の学問分野の枠を超えたより幅の広い視野から自然や環境問題、人間の幸福・生きがいを追求したいという目的意識と、</p> <p>①化学・生物・環境分野の研究に取り組み、その専門性を活かして社会で活躍したいという意欲</p> <p>②人間・社会・心の問題の研究に取り組み、その専門性を活かして社会に貢献したいという志</p> <p>を持ち、有機化学系、生物系、環境科学系、心理系、健康科学系、生命科学系のいずれかの分野の基礎知識をもとに探求する能力を身につけていることが望まれます。</p>

	総合学術研究科(博士後期課程)
DP	<p>総合学術研究科博士後期課程において、原則として3年以上在学し、専修科目について研究指導を受けて、所定の博士論文の審査及び最終試験に合格し、</p> <p>①自然・環境科学分野では、物質・生物・環境領域の高度な専門的研究</p> <p>②人間科学分野では、心理・生命科学領域の高度な専門的研究</p> <p>を通して、自然と人間の共生に関わる諸問題を深く考察し、問題を発見してその解決に向けた創造的な研究活動を自立して遂行できる能力を身につけた学生に対して、博士(学術)の学位を授与します。</p>
CP	<p>総合学術研究科博士後期課程の教育課程は、</p> <p>①物質・生物・環境・人間・生命の各分野における高度な学術研究</p> <p>②段階を追った博士論文の作成</p> <p>により、自然と人間の共生を具体化できる専門的職業人・研究者の育成を目指して、文理融合を重点において編成しています。</p>
AP	<p>総合学術研究科博士後期課程で学ぶためには、従来の学問分野の枠を超えたより幅の広い視野から自然や環境問題、人間の幸福・生きがいを追求する強い目的意識と、</p> <p>①化学・生物・環境分野で高度な学術研究を行い、科学・技術の発展に貢献したいという意欲</p> <p>②人間・社会問題を深く探求・考察する学術研究を行い、社会の発展に寄与したいという志</p> <p>を持ち、有機化学系、生物系、環境科学系、心理系、健康科学系、生命科学系のいずれかの分野の専門的知識を有していて、高度な研究を行う能力を身につけていることが望まれます。</p>